

毎月の《読む実学》と《ニュース&データコンパクト》をあなたへ

メビウス Member's Press

- 講義ダイジェスト ココ・ファームから学ぶ“大きくしない経営”とワイナリー見学
- 今月のニュース&データコンパクト
- 経営者のためのインフォメーション
- 会員お仕事紹介 株式会社 キー・フォレスト 新木 睦子さん

メビウス主宰
浅沼 公子

主筆からのメッセージ

おもてなしクールジャパン

「眠らないサービス化」

10月26日、日経トップに『りそな銀行の振込み24時間化。グループ内口座決済土日祝24時間化』が報じられていた。地元地銀も午後4:00までの窓口対応となれば、利便性が高まり嬉しい限りだ。

今やビジネスは、日本が夜であろうともグローバルに、人もマネーも各国で動いている。コンピューターや通信の革新で、24時間「眠らないサービス化」は、加速されるだろう。

ホスピタリティーは人がつくる

東京から約80kmの足利市。往来には、特急りょうもう号が最速である。

10月のある日、午前11:39分に乗った。通路をはさんだ隣の席にいた若い女性。通りかかった車掌に「コンビニでお弁当を買ったが、お箸をもらわず乗ってしまいました。貸していただけますか？」と尋ねた。

車内販売も何もない地方の電車である。が、ほどなく車掌は袋に入った割り箸を持ってきた。女性は嬉しそうに受取り、お弁当を食べ始めた。

(もしや、車掌さんのお箸ではなかったのか)とそのおもてなしに感動した。

今から10年位前。とあるセミナーのため、20時過ぎ、駅弁を買い、東京駅から福島方面行きの電車に乗った。2~3人の乗客のみ。空腹に、楽しみながら開けた駅弁に箸がない。無いのである。途方に暮れ、何か代用できるものかと思っても、どうにもならない。

23時過ぎ、着いたホテルで箸を借り、冷たい駅弁を食べた。以来、私の出張用キャリーバックには必ず箸が入っている。

地方にも広がる 鉄道のおもてなし

その日の19:10分、浅草発りょうもう号。発車する電車に、お掃除の方、駅員の女性、男性、数人の案内カウンターの女性。「いってらっしゃい」というように、きちんと手を前に、お辞儀をしながら、出発する電車を見送った。私は思わず、「行ってきます」と手を振った。

新幹線のお掃除天使たち

新幹線のホーム。おしゃれなハンチング帽をかぶり、帽子に季節の花を挿している女性男性7人と、荷物を積んだカートを持った男性、そしてアテンダント。きれいに一列に並んで12人、動き出した新幹線の方向に、「いってらっしゃい」というように、お辞儀をした。長い電車の最後尾がホームを通過するまでである。

次にお辞儀を立て直し、今去った方向に向かい、再度丁寧にお辞儀をする。「おや、なんでだろう」と思う先に新たな新幹線が入ってくる。「いってらっしゃいませ」というように、長い車両が止まるまでお辞儀。次に、それぞれの入口に立って、微笑みながら、会釈。次の瞬間には、さっと7分間の世界最速、魅せる掃除に入った。

.....
おもてなし 近年特にかまびすしい。

.....
表もなければ裏もない、おもてなし。ホスピタリティーが日本中のあらゆるビジネスシーンに広がっている。

日本人という価値がクールジャパンとして信頼されていると思う。

足利発！世界のワイン通をうならせた情熱がここに ココ・ファームから学ぶ “大きくしない経営”とワイナリー見学

前日まで台風18号が猛威をふるっており、心配しておりましたが、10月7日、当日は影響もなく、秋晴れのなか、メビウス外学を開催することが出来ました。毎年大好評の外学。「地元でゆっくりと楽しみたい」と、会員の方々よりご意見を頂き、今年は、地元足利が誇るワイナリー「ココ・ファーム・ワイナリー」で開催いたしました。それでは当日の様子をご紹介します。

ワイナリー見学

美味しいワインは、健康なブドウ作りから。



ワイナリー見学は、まず、ココ・ファーム・ワイナリーの歴史から始まります。

1950年代、当時、特殊学校の担当教師であった川田昇氏が栃木県足利市の山を買い、生徒であった知的ハンディを持った子供達と、山の急斜面を切り開き、600本余りのブドウの苗木を植えました。

その後、成人対象の知的障がい者更生施設として「こころみ学園」設立。

ブドウと椎茸の栽培をする中、ワインを造るために必要な醸造認可が社会福祉法人では下りず、こころみ学園の考え方に賛同する園生父母の出資により、有限会社「ココ・ファーム・ワイナリー」が誕生しました。

現在に至るまで、同社は学園父母が代表取締役役員となり、運営されています。

平均斜度38度のブドウ畑で、炎天下、夏草を刈り、日の出とともにカラス追いのカンを叩き、一粒一粒のブドウを大切に摘み取り、365日、やってもやっても、やりつくせない仕事。自然とともに働く日々は、ここで働く子供たちの心身を安定させ、誇り高き寡黙な農夫に変えていきました。

急斜面のため、車両や大型機械が入りません。全て、人間の手で行うしかないコツコツとした農作業が、ブドウ本来の魅力をもつ自然の味わいを引き出し、他では真似できない上質なワインを造りだしています。

収穫されたブドウが運ばれ、作業している現場を見学させていただき、ワイナリーの歴史、ワインやビン内二次発酵で、シャンパーニュ地方と同じ方法で造るスパークリングワイン製法など、約1時間をかけて、スタッフの方にご説明いただきました。

通常、（10名以上の場合は予約が必要）1日3回ワイナリー見学が開催されていますので、HPでご確認ください。



▲みなさん、早速ブドウジュースを試飲しながら、ワイナリーの歴史に聞き入ります

有限会社ココ・ファーム・ワイナリー 専務取締役 池上知恵子氏

「こころの仕事」でつくられるワイン



ワイナリー見学の後、こころみ学園創立者 川田昇園長のご息女でもある、有限会社ココ・ファーム・ワイナリー 専務取締役 池上知恵子氏より、ココ・ファーム・ワイナリーについてお話をいただきました。

左ページでもご紹介したように、ブドウ畑で働いている方々は、こころみ学園の園生たち。やってもやっても、やりつくせない手作業の仕事を、365日一生懸命行う。ワイン造りは、90%がブドウ作り。美味しいワインは、健康なブドウから造られる。

▲有限会社ココ・ファーム・ワイナリー 専務取締役 池上知恵子氏

池上氏は、このワイナリーは、何の仕事と聞かれたら、「こころの仕事」だと答えている。

ある時、雹（ひょう）が降って、ブドウがダメになってしまったことがあった。「あ〜なんで雹（ひょう）なんか降るんだろう」「どうしてこんなことになってしまったんだろう」と考えてしまう。

しかし、園生たちは、雹がふっても何も言わない。どうにもならない不条理を受けとめ、文句は言わない。辛いことがあっても、悩むより、いっぱい食べて、いっぱい寝る。これは、「命」として正しい。そんな「こころの仕事」によって造られたワインは、多くの人々を惹きつける。

今年で31回目を迎える収穫祭を11月15、16日に開催。昨年は、県内外から1日約八千人が訪れ、大地の恵みを堪能しました。どのように宣伝、集客をしているのでしょうか。

池上氏は、『そっと「誰にも内緒だよ」と言えば、誰しもすぐに誰かに話したくなる。「今度〇〇するから、みんなに知らせて」と大声で言うと、聞いた人は忘れてしまうの。』と“こそっ”と教えてくださいました。ここに成功のヒントがあるのかもしれませんが。

地元農産物を使ったランチを堪能

学長の脇田直枝氏の乾杯で、皆さまお楽しみ、地元の農産物を使った美味しいランチが始まりました。

せっかくワイナリーに来たのに、車で来たからがっかり・・・ご心配には及びません。こちらでは、美味しいワインだけでなく、とても美味しいブドウジュースを頂くことができます。参加者の皆さん、お隣の方と、食事も会話も弾み、楽しいランチ会となりました。



ワイナリーに併設されたショップには、ワイン、ジュース、チーズ、干しブドウ、ワイングラスなど、ワインを楽しむ素敵な品々がいっぱい。試食することもできます。

両手いっぱいにお土産を手に、みなさんお帰りになりました。

また、来年の外学もお楽しみに。



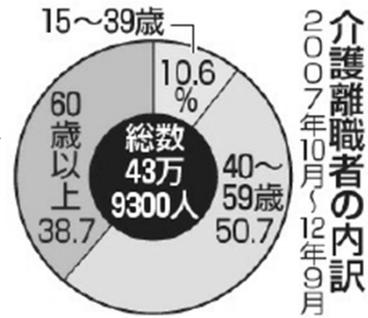
▲外学をとっても楽しみにしていらっしゃる脇田学長



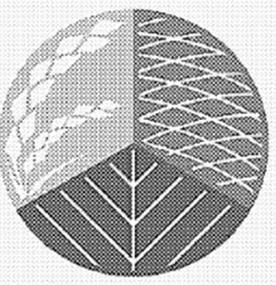
介護離職者5年で倍増 40~50代女性で顕著 2014.10.5 日本経済新聞

家族の介護のために仕事を辞める人が急増している。2013年の介護離職者は前年比41%増の9万3000人。高齢化が加速するなかで、5年前の2倍に膨らんだ。特に40から50代の女性が目立ち、介護の負担が女性に偏っている実態が浮き彫りになった。厚生労働省の雇用動向調査をもとに、離職理由に介護を挙げた人を集計した。

男女で比べると、13年の介護離職者のうち、女性が7万人と76%を占めた。女性の年代別で最も多いのは、40代後半(1万8000人)50代前半(1万2000人)、50代後半(1万人)が続いた。子育てが一段落して再び働きやすくなる年代でもあるが、親の介護で離職を余儀なくされるケースが多い。一方、男性は2万3000人で、年代別では50代後半の6000人が最も多かった。



「健康な食事」認証マーク コンビニ弁当や総菜に 2014.10.7 日本経済新聞



厚生労働省は、炭水化物やたんぱく質など必要な栄養素の摂取基準を満たしたコンビニエンスストアやスーパーの弁当、総菜などを「健康な食事」として認証し、表示できるマークを選定した。主食は黄色、主菜は赤色、副菜を緑色で表し、3色を上手に組み合わせることで栄養バランスの良い食事を取ることができるという。マーク

▲これが目印！ は一般から募集し、114点から選ばれた。対象は市販される調理済みの食品。主食などの分野別にエネルギーの上限を設け、必要な栄養素や食塩量などを定めた。審査はなく、製造販売者は来年4月から、基準を満たした商品にマークをつけることができる。社員食堂のレシピ本がベストセラーとなった「タニタ」の管理栄養士や、コンビニ大手ローソンの幹部らが、専門家として検討してきた。

「ななつ星」今も30倍の争い 列車滞在の旅 2014.10.15 日本経済新聞

豪華観光列車の運行がこれからも相次ぐ	
列車名	特徴
JR東日本 トランスイート四季島	客室はすべてスイートルームでモダンな雰囲気と和の要素を取り入れた内装。2017年春の運行予定
JR西日本 未定	京阪神を出発して日本海や瀬戸内海沿線を巡る。定員は最大30人で17年春の運行予定

九州旅客鉄道(JR九州)の豪華寝台列車「ななつ星in九州」が運行から1年を迎える。直近の申し込みの平均抽選倍率は33倍で今も高い人気を維持している。列車に乗りながらホテルのようなおもてなしで、運行開始以降も接客の改善に取り組んできた。来年夏からは、地元の食材を使ったスイーツ料理が楽しめる観光列車も運行する。今年のJR九州の乗り放題切符の販売数は前年比4割と大幅に伸びる見通し。東日本旅客鉄道(JR東日本)なども新しい観光列車を投入する計画で、列車に滞在して観光するという新たな分野で消費者の選択肢が広がりそうだ。



大卒内定 製造業6.1%増

車・鉄鋼けん引 2014.10.20 日本経済新聞

2015年4月定期採用状況

来春採用
本社調査

日本経済新聞社の2015年度採用状況調査で、**主要企業の大卒採用内定者数(15年春入社)**は今春実績比7.3%増え4年連続で前年実績を上回った。業績が改善した**自動車や鉄鋼がけん引、製造業が6.1%増**と3年ぶりに増えた。非製造業は7.9%増も小売りや外食などで計画に届かない企業が目立つ。**16年春入社**(現在の大学3年生)から採用活動は3ヶ月繰り下げになり、採用競争が一段と激しくなりそうだ。製造業で14年度に増えたのは3業種だけだったが、**15年度は18業種中14業種がプラス**となった。**自動車・部品**は製造業全体の1割強の3631人の内定者を出し**11.6%伸びた**。

	社数	採用内定人数	2014年4月実績数	2014年度比増減率(%)
〈総合計〉	835	115,120	107,832	6.8
大卒合計	924	101,823	94,887	7.3
文科系	700	31,763	29,998	5.9
理工系	700	30,427	28,384	7.2
短大・専門学校・高専卒計	759	6,636	6,440	3.0
高卒計	830	14,143	14,057	0.6

(注)合計と内訳の人数、増減率が一致しないのは採用分類が異なる企業があるため

乗務員に「怒り制御」研修 客とのトラブル回避

2014.10.28 日本経済新聞

タクシー大手の日本交通は乗務員研修に、**怒りの感情を制御する教育プログラム「アングーマネジメント」**を導入する。同社によると、タクシー・ハイヤー業界では初めてという。11月に実施する**入社1年以内の乗務員の研修**で実施する。アングーマネジメントは米国で開発した教育プログラムで、**企業や教育機関、スポーツ界などで導入例**がある。研修では専門家が具体例を交えて講演し、**怒りの仕組みについて理解を深める**。年末年始、タクシーの利用客が増え、酒酔い客とのトラブルも想定される。研修の意義について「**乗務員の冷静な判断・対応による安全運行や快適な社内空間づくりを目指す**」としている。



◇話の盛り上がり イスがキャッチ◇

共感の姿勢解析

2014.9.30 日本経済新聞

大阪大学の伊藤雄一準教授らは、**会議やパーティーの盛り上がり**を参加者のイスマに付けた**センサーで測る技術**を開発した。イスマにかかる力や座る重心位置を調べて**姿勢を判別**する。**意思疎通の程度を推測し、会議への関心の高さを探る**。オフィス家具メーカーや講演会運営会社と組んで**1~2年以内に実用化**する。共感した時に相手と同じ姿勢をとる「**同調行動**」を調べた。着席中の「**うなづく**」「**足を組む**」「**背もたれに寄りかかる**」といった姿勢を**センサーで推測**。同調行動が多いチームほど「**意思疎通が取れてる**」ようだ。イスマはパーティーなどで**相性のいい人を見つける助け**にもなる。**普段と違う動きから居眠りをする人もみつかる**という。



育児休業から復帰した際の社会保険料

前回「育児休業給付金の拡充」について確認しましたが、今回は育児休業から復帰した際の取扱いについて説明します。

◆社会保険料の原則的取扱い

育児休業から職場復帰する際は、勤務時間や業務内容について調整を行うことがあります。多くの場合、勤務時間帯や残業についての調整がなされます。この場合、**労働条件の変更**として**賃金改定**が行われます。

通常、社会保険料については、固定的賃金の変動等の理由により、**随時改定(月額変更)**を行います。随時改定(月額変更)の要件は次の①～③です。

- ① **固定的賃金**に変動があった
- ② 変動月から**3ヶ月**の間に支払われた報酬の平均月額に該当する標準報酬月額と従来の標準報酬月額との間に**2等級以上の差**が生じた
- ③ **3ヶ月**とも支払基礎日数が**17日**以上だった

◆育児休業から復帰した際の社会保険料の取扱い

育児休業終了日に**3歳未満**の子を養育している場合は、以下の条件を満たす場合、**◆**による通常の月額変更該当しなくても、**育児休業等終了時の改定**として標準報酬月額を見直すことができます。

この場合、育児休業終了日の翌日が属する月以後3ヶ月間に受けた報酬の平均額に基づき、4カ月目の標準報酬月額から改定となります。

- ① 改定後の標準報酬月額と従来の標準報酬月額との間に**1等級以上の差**が生じること
- ② 育児休業終了日の翌日が属する月以後**3ヶ月**のうち、**少なくとも1ヶ月**における支払基礎日数が**17日**以上であること

上記のように、育児休業から復帰した際には、通常の月額変更の要件である**固定的賃金の変更がない場合にも対象**となりますので、注意が必要です。

◆子が3歳までの期間

子が3歳までの期間については、**◆**育児休業から復帰した際の社会保険料の適用に加えて、**養育期間の従前標準報酬月額のみなし措置**が設けられています。これは、養育期間において労働条件の変更により賃金が下がった場合においても、将来受け取れる年金が減らないように計算されるというものです。

ご不明な点は、事務局にお尋ねください！

- ◆お問合せ先：NPO法人 女性のためのビジネススクール メビウス事務局◆
(栃木県足利市本城2-1901-8 アサヌマビジネスサポート内)
TEL:0284-41-1324 FAX:0284-41-1340

メビウスは、あなたの会社の
強力サポーターです
個別相談

経営には確かな

アドバイザーが必要です。

ビジネスのあらゆる課題に、

豊富な知識と経験で

あなたの身近な強い味方。

ご相談をお伺いするのは…

主宰：浅沼 公子 又は

顧問：関田 恭裕 です。

<相談日> **11月26日(水)** AM10時
～PM5時

<場 所> ㈱浅沼経営センター足利本社

<料 金> 無 料

締切り 11/19

<ご相談のお申込み>

お電話：0284-41-1324 Mail：office@bs-mebius.net

～マイ・デスク～
わたしの相談

女性のライフステージの変化…

マネープラン見直しのタイミングです。

生命保険のご相談…管理台帳を作りましょう

マネー・ライフ プランのご相談

ご相談をお伺いするのは…

主幹：三上 洋子 です。

<相談日> **11月11日(火)** AM10時
～PM5時

<場 所> ㈱浅沼経営センター足利本社

<料 金> 無 料

締切り 11/8

My SELECTION

～私のオススメ！～

100年永続の「タカラヅカ」
に見る人事管理



私は年に数回、気分転換に東京宝塚劇場へ出向いています。その「宝塚歌劇団」が今年4月に100周年を迎えました。今年の公演は、例年以上にチケットが取れないという盛況ぶりは、皆さんもご存知かと思います。

宝塚には「新人公演」と「本公演」があり、全く同じ作品を上演します。「新人公演」に出る入団1年目から7年目の者(下級生)は、「本公演」における自分の役のほかに、「新人公演」の役も演じます。

下級生は、「本公演」の演出家の指導を受けるほかに、「新人公演」の演出家の指導も受け、更に「本公演」の同じ役(本役)を演じている上級生からも指導を受けるのです。

こうして、多様な経験を丹念に積み重ね、先輩の技を継承し、一定の期間内に集中して成長する場を与られます。この期間、最初の7年間は雇用契約により在籍します。しかし、8年目からはタレント契約となり、個人事業主へと変更されるそうです。

つまり、最初の7年間は年功序列の日本伝統の雇用形態で守られ、その後は成果主義による報酬制の野へと否応なく放たれるのです。

この『宝塚流』人事制度。ひとり一人の若者に費用と時間、手間をたっぷり惜しみなく掛ける代わりに、期待する成果が現われない者へは、早い時期にその将来が宣告されてしまう。

連綿とスターを生み出す「タカラヅカ」の秘密は、この辺に隠れていそうです。

経営の「要」は人事管理にあり。我々一般企業との共通点が見いだせます。皆様もぜひ、このように教育・評価されたスターを観に行かれてはいかがでしょうか？

メビウス顧問 関田恭裕



アナウンサー・話し方研修・接遇マナー講師
株式会社 キー・フォレスト
新木 睦子さん



ラジオ局FM群馬にアナウンサーとして入社以来11年間、ニュース情報ワイド番組のパーソナリティーや、プロデューサーとして番組企画や制作も担当。フリーランスの現在は、FM群馬で定時ニュースや週末朝の情報番組を担当、その他イベントの司会やナレーションなども担当しております。

《担当番組》



只今出演中です!

- * FM群馬のニュース担当アナウンサー
- * FM群馬の番組「トーク&マナー講座」(土曜17:50~)



お問い合わせはメールにて・・・

E-Mail: keyforest07@yahoo.co.jp

《その他》

「話し方」「マナー」を中心に大学や短期大学の講師として学生を指導する一方、FM群馬のアナウンス講座や企業等で、社会人の方を対象に「話し方」「コミュニケーション」「プレゼンテーション」「スピーチ」「接遇」講座の講師等も務めています。

《2014年の講師実績》

- ♪ 「県立新任校長の話し方講座」
- ♪ 「公立大学面接対策講座」
- ♪ 「学習塾・予備校講師研修」
- ♪ 「PTA連合会親子話し方講座」
- ♪ 「病院スタッフの為のコミュニケーション講座」



「緊張しないで人前で話したい」「お客様に、わかりやすい説明ができるようになりたい」など日頃のコミュニケーションに役立つ『話し方』を学んでみたい方、ぜひお気軽にお問い合わせください。

コラム 辛口甘口こんなこと

父と娘

TBS日曜劇場『親父の背中』というドラマがあった。当代きっての10人の脚本家による10の物語。息子と父パターンはピンとこなかったが、娘と父の回は「うーん」わかる・・・であった。そうなのよ、父と娘ってこうなのよ、とひとり呟きながら、そして涙をこぼしながら観ていた。

私と父は、NHK朝ドラ仲間だ。父は早朝会議などない限り、ニュース番組の延長で朝ドラを見る。週に何度か昼に顔を合わせる。「洋子～ 今朝見たか～」昼の12時45分。朝ドラ再放送スタート。最近の盛り上がりは、「花子とアン」での美輪さんの『愛の賛歌』が流々と流れたあのシーン。すぐに思い浮かぶ方もおられると思う。「今日は、感動だ。必ず見ろよ～。すごかったぞ～」と既に興奮気味の父だった。

父との関係は 母とのそれとは大きく異なる。母とは子宮のつながりがあって、何があっても決して切れることのない、唯一絶対、最強の絆。濃い血の繋がりを感じる。母と娘については今、何かと話題である。NHKの特報首都圏でも「母と娘は遠慮がない」をテーマに番組が作られたり、ルポルタージュや告白本も数多く出版もされている。(←母については日を改めて書こうと思っている)

一方、父とはどうか。娘にとって父は、初恋の人であり、理想の男。夫とはまるで別次元の最愛の人。横にいてだけで、その存在だけで、大きくて安心できるけれど、半面、気持ちとしては、親子が逆転したかのようになんとか心配で、ほおっておけない。皆さんも父親に対して、そう感じませんか？

私は感動屋なので、喜怒哀楽すべてが「泣き」となる。「すぐ泣く～」と兄にからかわれることもしょっちゅうだ。ドラマの起伏で泣くのはもちろんのこと、父の隣での朝ドラ(実際には昼ドラだが)、そのドラマを見る15分間が、こんな貴重で愛すべきわずか15分という時間がいつまでも続いてほしい、と父の横顔を見ながら最近つとに願わずにはいられない。

主幹：三上 洋子

※自由なご意見お寄せください。